別表１（第４条・第５条第１項関係）

|  |  |
| --- | --- |
| **技術名** | **技術の概要** |
| ヒアルロン酸を用いた生理学的精子選択術（PICSI） | ヒアルロン酸を含有する培地を用いて、成熟精子の選択を行う技術。 |
| タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養 | 培養器に内蔵されたカメラによって、胚培養中の胚を一定間隔で自動撮影し、培養器から取り出すことなく、正確な胚の評価が可能となる技術。 |
| 子宮内細菌叢検査１（EMMA/ALICE） | 子宮内の細菌叢が、正常であるのか、異常であるのか、またその菌の種類の組成を判断する検査。 |
| 子宮内膜刺激術（SEET法） | 胚培養液を胚移植数日前に子宮に注入し、受精卵の着床に適した環境を作り出す技術。 |
| 子宮内膜受容能検査１（ERA） | 子宮内膜を採取し、次世代シークエンサーを用いて遺伝子の発現を解析し、内膜組織が着床に適した状態であるのかを評価する検査。 |
| 子宮内膜擦過術 （子宮内膜スクラッチ） | 胚移植を行う予定の前周期に子宮内膜のスクラッチ（局所内膜損傷を与える）を行い、翌周期に胚移植を行う技術。 |
| 強拡大顕微鏡を用いた形態学的精子選択術（IMSI） | 強拡大の顕微鏡を用いて、成熟精子の選択を行う技術。 |
| 子宮内細菌叢検査２（子宮内フローラ検査） | 子宮内の細菌叢が、正常であるのか、異常であるのか、またその菌の種類の組成を判断する検査。 |
| 子宮内膜受容能検査２（子宮内膜受容期検査：ERPeak） | 子宮内膜を採取し、RT-qPCRを用いて遺伝子の発現を解析し、内膜組織が着床に適した状態であるのかを評価する検査。 |
| 二段階胚移植法 | 先行して初期胚を移植し、後日、継続培養を行った別の胚盤胞を移植する技術。 |
| 膜構造を用いた生理学的精子選択術 （マイクロ流体技術を用いた精子選別） | 特殊な膜構造を用いて、成熟精子の選択を行う技術。 |
| タクロリムス投与療法（反復着床不全に対する投薬） | 反復着床不全に対して、免疫抑制剤（タクロリムス）の投与を行う技術。 |
| 着床前胚異数性検査（PGT-A） | 胚から一部の細胞を採取して染色体の量の解析を行い、染色体数が正常な胚を選択する技術 |